

同窓生の活躍

九州理学療法士学会大会2024in佐賀

先日、九州理学療法士学会大会が佐賀市の「SAGA アリーナ」で開催されました。完成したばかりのSAGA アリーナの広大なスペースを使用し、華やかな学会となりました。今回の大会には、なんと1,300名を超える参加者が九州各地から集まり、大盛況のうちに幕を閉じました。

大会では著名な先生方による教育講演が行われ、理学療法の最新トピックや臨床への応用について深く学ぶ貴重な機会となりました。また、佐賀開催ということもあり、発表者やスタッフとして西九州大学の卒業生が多数活躍しておりました。会場では大学時代の先輩や後輩、教員との再会も多く、近況報告や思い出話に花が咲いたようです。さらに、学会に合わせて同窓会を開いた学年もあったようで、楽しく充実した2日間になったようです。

理学療法士としての知識を深めるだけでなく、人と人との絆を改めて実感できる貴重な2日間となったと思います。この大会を機に、九州全域での理学療法の発展と卒業生のさらなるご活躍を祈念いたします。

【卒業生による演題一覧】

- ・「高齢者の最大歩行速度には立位での足指圧迫力が関係する」釜崎大志郎(西九州大学・8期生)
- ・「地域包括ケア病棟入院患者の早期退院に影響する因子」末永拓也(敬天堂古賀病院・8期生)
- ・「左小脳出血による失調性歩行に対して体幹機能に着目し歩行動作能力改善を目指した症例について」三牧遼平(八女リハビリ病院・13期生)
- ・「急性期脳卒中片麻痺患者の座位での下肢荷重力は歩行自立の可否を予測する」田中勝人(今村病院・8期生)
- ・「地域在住高齢者の抑うつ状態と社会的フレイルの関係」吉田裕彦(百武整形外科スポーツクリニック・8期生)
- ・「当院における腰椎分離症の傾向と再発例の特徴」上原博斗(百武整形外科・スポーツクリニック・12期生)
- ・「左仙骨疲労骨折を発症した高校男子テニス選手の1症例-超音波画像による腹部筋群の評価-」山田諒太(にしかわ整形外科・12期生)
- ・「地域在住高齢者の杖使用の有無に関する要因の検討」釜崎大志郎(西九州大学・8期生)
- ・「地域在住高齢者の歩行速度には身体活動日数が関係する」井手翔太郎(甘木中央病院・8期生)
- ・「内側開大式脛骨粗面下骨切り術前後における足関節アライメントの変化」塚田奈海(鶴田整形外科・8期生)
- ・「地域在住健康成人の朝食摂取の有無と骨格筋量指数の関係」藤村諭史(横須賀病院・8期生)



西九州だより 2024

Nishikyushu University Public relations magazine

卒後研修会の開催報告 (2023年度、2024年度)

西九州大学リハビリテーション学部同窓会卒後研修会

【2023年】

2023年度の卒後研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、同窓会初の試みとなるハイブリッドでの研修会を開催いたしました。リハビリ発達支援ルーム かもんの鴨下加奈子先生と福岡整形外科病院の田中創先生をお招きし、多くの方にご参加いただきました。

●鴨下先生の講義：「発達に支援が必要な子どもへの生活動作と読み書き支援」

発達に支援が必要な子どもへの生活動作と読み書き支援をテーマに、対象者やその保護者と関わるうえで、作業療法士としての考え方や役割について、動画や教材を用いて、分かりやすくご講演いただきました。参加者からは「対象者への声掛けの方法や訓練への興味の向け方、訓練内容、保護者への支援方法等、日々の業務で悩むことが多々あったため、大変勉強になった」「経験に基づいたお話でとても分かりやすかった」といった感想が多く寄せられました。

●田中先生の講義：「慢性疼痛に対する評価・介入～運動器疼痛を中心に～」

慢性疼痛に対する評価・介入をテーマに、慢性疼痛のメカニズムから具体的な介入まで、分かりやすくご講演いただきました。配布資料は書き込みながら受講できるようにご配慮いただき、参加者の方々が熱心にメモを取りながら受講されている姿が印象的でした。参加者からは「経験に基づいたお話で、とても分かりやすかった」「今回の講演で得た知識を、患者様へ還元していきたいと強く感じた」との感想が寄せられました。研修会全体の感想として「毎年面白い研修会を開催いただき、楽しみにしております」とのお声も寄せられました。ご参加いただいた皆さまに、この場を借りて心より感謝申し上げます。



【2024年】

今年度は、宝塚リハビリテーション病院の中谷知生先生と昭和大学リハビリテーション学科の青木啓一郎先生をお招きし、対面形式で開催しました。当日は多くの参加者が集まり、大盛況となりました。

●中谷先生の講義：「脳卒中患者の歩行再建の理論と実際」

脳卒中患者の歩行再建をテーマに、基礎から臨床応用までを幅広くご講義いただきました。特に、筋活動を可視化したデータに基づく解説は、多くの参加者にとって新鮮かつ実践的な内容でした。講義中、参加者が真剣にメモを取る姿が印象的で、「時間が足りないほど有意義だった」、「客観的指標が非常に分かりやすかった」といった声が寄せられました。

●青木先生の講義：「脳卒中による運動麻痺を呈した症例に対する日常生活の介入～食事・更衣・排泄～」

脳卒中患者のADLへの介入をテーマに、明日から使える実践的な内容をご講義いただきました。特に、実技の時間が多く盛り込まれており、参加者が実際の介入方法をイメージしやすい構成が大好評でした。参加者からは「動作分析が苦手だったが、実技を行いながら解説していただいたので理解しやすかった」、「実技の時間が多く、時間が足りないくらい楽しく取り組めた」といった感想が多く寄せられました。

また、今年度からPT・OTどちらも生涯学習ポイントの付与対象研修会として開催をいたしました。卒業生のみならず、九州各県から多くの先生方にご参加いただけたことを役員一同たいへん嬉しく思っております。この場を借りて、改めて心より感謝申し上げます。同窓会では今後も定期的に研修会を開催していく予定です。これからも皆さまのご参加をお待ちしております。



ひとやすみ

～同窓会役員のつぶやき～

5期卒業生 工藤 幸奨

西九州大学リハビリテーション学部5期卒業生の工藤幸奨と申します。同窓会役員として活動しております。今回は、最近の出来事を通して、少しお話し出来ればと思います。

とあるイベント会場にて「あなたの将来の夢をお聞かせください!」と聞かれることがありました。私は、不意を突かれて、笑って誤魔化し何も答えることが出来ませんでした。後に思い返すと、目標は日頃からよく考えていましたが、夢を明確にしたことがありませんでした。

夢とは、現実とかけ離れた空間。また、将来実現したいと思う事柄。目標とは、ある期間に達成したい結果や事柄とあります。夢、目標どちらも将来、未来に対する言葉ですが、夢を達成する為に目標が必要になります。

プロ野球選手の太田翔平選手は、高校生の時に、夢を確立し実現するために、夢実現シート(マンダラチャート)を使用して将来図を整理していました。今や、メジャーリーグで大活躍されており、夢を実現されています。

私には、大谷選手のような壮大な夢がないのですが、夢は常に持ち続けたいといけなのではないでしょうか?夢が確立していた方が、目標の立案、目標を達成するための道筋もスムーズに進んでいくことが出来ます。また、夢を達成した時の幸福度は大声で叫びたくなる程でしょう。しかし、現時点で夢がなくても、無理に作ろうとせず、興味・関心があることに全力を尽くせば、夢の確立へと繋がるのではないのでしょうか。小さな目標の積み重ねが、結果として夢に繋がり、たとえ夢に届かなかったとしても、自身の努力や頑張りは無駄になりません。このように、目標の先に夢が見つかることもあるのではないのでしょうか。日々努力し、最後に「これが自分の追い求めていた夢か!」と認識できれば、それも幸せな人生だなと思えます。

人生100年時代。今後、ワクワクする夢を見つけることが出来るか分かりませんが、ゆっくり時間をかけて見つけていくのも私らしいと思います。

お問い合わせ



西九州大学

〒842-8585
佐賀県神埼市神埼町尾崎 4490-9

住所・姓名などの変更はHPの専用フォームよりご連絡ください。

TEL 0952-37-9331

営業時間
8:50～17:50(平日のみ)



▲お問い合わせ

2023年度 西九州大学大学院 リハビリテーション学専科(修士課程)修了者に聞いてみた!

アンケート内容

- 1 所属
- 2 大学院に進学したきっかけは?
- 3 なぜ西九州大学の大学院を選びましたか?
- 4 大学院でどんな研究をされましたか?
- 5 指導教員の先生を一言でいうと?
- 6 大学院への進学を考えている方に一言!

- 1 久留米リハビリテーション病院
- 2 研究を専門的に学び、学位を取得するため
- 3 勤務先の所属長に相談し、紹介してもらいました
- 4 脊椎圧迫骨折患者の移動能力に関する研究
- 5 いつも指導が丁寧(大田尾先生)
- 6 迷ったら行動!!



保坂 公大さん
帝京大学福岡医療技術学部

- 1 西九州大学短期大学部
- 2 研究力を深めたいと思い進学した
- 3 出身大学であり、恩師の先生に誘っていただいたため
- 4 介護を学ぶ留学生の留学初期の困難とその適応に向けた心理プロセス
- 5 優しい(藤原先生)
- 6 興味があることは積極的に深める



鶴 和也さん
西九州大学(1期生)

- 1 医療法人社団正信会 水戸病院
- 2 年齢が50歳となり、臨床での仕事だけでなく職場の選択肢を増やすことを考え、大学院で学び学位を取得したいと思いました
- 3 大田尾教授がおられた為
- 4 簡易認知機能検査としての時計描画テストの有用性
- 5 フレンドリー(大田尾先生)
- 6 勉強は若いうちにやるべき



西隈 亮さん
国立善通寺病院付属
リハビリテーション学院

- 1 もろくま心療クリニック
- 2 現在の職場に入職した際に、精神科クリニックの作業療法士として何ができるか悩みました。その時に、ゼミの先生であった小松先生に相談し、大学院で学ぶことを決めました。
- 3 出身大学でもあり、職場からの通いやすい距離だった為
- 4 精神科クリニックに通院する患者を対象とした身体機能に関する研究
- 5 優しく穏やか(小松先生)
- 6 研究は大変ですが、自分の視野が広がると私は感じました。少しでも大学院を考えているのなら、おすすめです。



諸隈 律さん
西九州大学(8期生)

博士後期課程 入学者インタビュー

西九州大学大学院 保健医療学専攻(博士後期課程) 2024年度入学者

久田 貴幸(ひさた たかゆき)さん



- 1 所属施設
長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科
- 2 取得免許
介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員
- 3 指導教員
宮原 洋八 教授
- 4 なぜ博士後期課程への進学を希望したのか
博士後期課程に進学しようと思った理由は、知識と専門性の深化が挙げられます。修士課程を修了した時点で、私は自分の福祉分野に関する基礎的な研究を行いました。しかし、今後の社会福祉における課題について考えるときに、さらに深い理解と専門知識を追求したいという想いがありました。博士後期課程では、特定の研究テーマについて徹底的に探求し、新たな知見を得ることができる環境が整っていると考えました。自分の研究を通じて新しい理論や方法論を発見し、福祉分野に貢献できるのではないかと考え博士課程への進学を決意いたしました。

- 5 なぜ西九州大学大学院保健医療学専攻を選んだのか
私は、社会福祉の研究において介護予防や転倒予防などに対する研究が立ち遅れていると感じており、そのテーマについてもっと深く探求したいという想いがありました。西九州大学大学院保健医療学専攻では、これらの分野に関する研究が進められていると感じており、博士論文執筆までの過程で新しい発見をする機会があるのではないかと考えました。また、博士課程では、同じ分野で学ぶ他の学生や先生方と出会う機会が多くあります。これらの方々とネットワークは、社会福祉の研究を進める上で非常に価値があると考えており、自分の研究をさらに発展させるための新たな機会を見つけたいと考えました。以上のような理由から、私は西九州大学大学院保健医療学専攻を選択した次第です。

- 6 どのような研究に取り組まれる予定なのか
これから取り組もうとしている研究は、「要介護度による立ち上がり動作時の地面反力と身体機能、転倒の関係性」です。計測機器を用いて、立ち上がり時のパワー・スピード・バランスを測定し、健康な高齢者・要支援の高齢者・要介護の高齢者のデータを比較し、転倒との関連を分析したいと考えています。

- 7 目標・意気込み
日々戸惑いばかりですが、一歩ずつ頑張りたいと思います。

保坂 公大(ほさか こうだい)さん



- 1 所属施設
医療法人かぶとやま会 久留米リハビリテーション病院
- 2 取得免許
理学療法士
- 3 指導教員
大田尾 浩 教授
- 4 なぜ博士後期課程への進学を希望したのか
より高いレベルで研究を学びたいと思ったこと、さらには現在取り組んでいる研究成果を臨床や地域へ還元していきたいと思ったからです。
- 5 なぜ西九州大学大学院保健医療学専攻を選んだのか
私は、修士課程を西九州大学大学院で修了しました。指導教員の大田尾浩教授をはじめ、先生方のご指導のもと充実した2年間を過ごすことができました。そのため、博士課程でも西九州大学大学院を希望しました。講義をオンラインで対応していただけることは、社会人学生である私にとって選択肢の一つでした。
- 6 どのような研究に取り組まれる予定なのか
高齢者に多い脊椎骨折を受傷した患者様の移動能力について、予後予測や目標設定に関する研究に取り組んでいます。

- 7 目標・意気込み
臨床に貢献できる研究成果を常に意識して院生生活に取り組みたいです。